

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

児童生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、自分らしい生き方を実現するための力を養い、社会の一員として生きがいを持ち、積極的に社会に参画する意欲と態度を育成することをめざした教育活動を行う。 そのために以下の点を重点目標として学校経営に取り組む。 1. 生徒が安全・安心に学習活動に専念できる学校 2. 知的障がい教育の専門性を高め、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導及び支援を提供できる学校 3. キャリア教育を推進し、生徒のニーズに応じた進路実現を支援できる学校 4. 生徒の安定した生活を支援し、また、特別支援教育のセンター的機能を発揮する学校
--

2 中期的目標

1. 生徒が安全・安心に教育活動に専念できる学校 (1) 大災害時をシミュレーションし、学校内外での対応を検討する。 ア P T Aとも連携し、必要な備蓄品の検討や購入システムの確立を図る。 ＊H25 年度は H24 年度の取り組みを振り返り、必要な備蓄品の再検討や P T A内での予算の確保等について検討する。 ＊H26 年度は必要な備蓄品の検討を引き続き行うとともに、大災害に対する教職員・保護者の意識の向上のための研修等を計画する。 イ 個別の教育支援計画とも連動した「災害時用個人カード（仮称）」の作成及び保管方法について検討する。 ＊H25 年度は「災害時用個人カード（仮称）」の作成及び保管方法について、具体的な案を保護者と調整し、検討する。 ＊H26 年度は H25 年度の反省をもとに、「災害時用個人カード（仮称）」の作成及び保管方法及び活用について確定させる。 2. 知的障がい教育の専門性を高め、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導及び支援を提供できる学校 (1) 教員の授業力の向上及び知的障がい教育における専門性の向上を図る。 ア 校内での研究授業を積極的に実施し、テーマを決めた充実した研究協議を行い、授業力の向上を図る。 ＊H25 年度は 1 ～ 3 年目の教諭 30 名全員が研究授業を行う（指導教員・教科指導員に加えて、首席・コーディネーター・研究部が主にサポートを行う。） ＊H26 年度は 1 年目の教諭は全員研究授業を行う。 2 ～ 3 年目の教諭はテーマを絞り込んで 5 名程度の研究授業と充実した研究協議を行う。 イ O J T及び校内研修を充実させ、専門性の向上に努める。 ＊H25 年度は 4 年目の教諭全員に教育実習生の指導を経験させる。また、支援部・研究部を中心に専門的な校内研修を行う（PT, OT, ST 等を活用した研修等を 5 回以上行う）。 ＊H26 年度も同様（PT, OT, ST 等を活用した研修等を必要に応じて増やす）。 【タブレット型 PC の活用についても積極的に進める】 ウ 専門性の向上につながる研修に積極的に参加させる。 ＊H25 年度は中学部・高等部それぞれで 2 名以上、校長マネジメント経費を活用し、専門性の向上につながる研修に参加させる。 ＊H26 年度は中学部・高等部それぞれで 3 名以上、校長マネジメント経費を活用し、専門性の向上につながる研修に参加させる。 3. キャリア教育を推進し、生徒のニーズに応じた進路実現を支援できる学校 (1) 生徒の卒業後の自立を見据え、生徒の持つ可能性を最大限に伸ばすように努める。 ア 高等部卒業後の進路に向けて、実習先を確保し、高等部全学年での実習（体験実習・現場実習）を充実・定着させる。 ＊H25 年度は実習先開拓のための企業訪問を 100 ヶ所以上行う。実習時の教員の巡回指導も充実させる。 ＊H26 年度は実習先開拓のための企業訪問を H25 年度実績以上行う。実習時の教員の巡回指導も充実させる。 イ 卒業後すぐに就職することをめざす生徒にはクリーンコース（職業コース）を中心に就労に向けた指導を行い、就職希望者全員の就職をめざす。 ＊H25 年度は高等部各学年に複数のクリーンコース担当者を配置し、指導の充実を図る。 ＊H26 年度は H25 年度の反省を踏まえて、クリーンコースの教育課程や担当者配置等の充実を図る。 ウ 高等部と連携し、中学部でのキャリア教育を充実させる。 ＊H25 年度は中学部生徒及び保護者がクリーンコースも含め、職業に関する高等部の授業を見学できる機会を設ける。 ＊H26 年度はクリーンコースでの中学部生徒の体験実習を行う。 4. 生徒の安定した生活を支援し、また、特別支援教育のセンター的機能を発揮する学校 (1) 関係機関と連携し、校内では家庭及び学校での生徒の安定した生活の確立に努め、校外では地域支援の充実に努める。 ア コーディネーター及び支援部を中心に据え、生徒の課題解決へ向け、チームでスピーディーに、タイムリーに関わることができるよう、校内システムを充実させる。 ＊H25 年度は経験の少ない教諭が校内でチームとして支援の必要なケースを自ら考え、問題提起できるよう、事例検討会等を実施する。（10 ケース程度） ＊H26 年度は経験の少ない教諭がコーディネーターと共に校内でチームとして支援の必要なケースに中心メンバーとして取り組む。 イ 北河内地域の支援学校の一つとして、他の支援学校と連携・協力しながら、地域支援を充実させる。 ＊H25 年度は巡回相談や講師派遣等の依頼にはすべて応じる。市の各種協議会にも支援部を中心に出席・協力する。 ＊H26 年度は H25 年度実績を基に地域支援の充実に図る。巡回相談や講師派遣の依頼にはすべて応じる。市の各種協議会には支援部及び経験の少ない教諭も出席・協力する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成２５年１１月実施分〕	学校協議会からの意見
○生徒・保護者・教職員を対象に実施 回収率は生徒 75％（内 10％は全項目無回答）、保護者 81％、教職員 94％。 【教育活動に関するもの】 ・「学校・クラスが楽しい」と回答している生徒・保護者が約 80％となっており、概ね生徒にとって楽しい学校・クラス運営が行われている。 ・「学校行事が楽しい」との生徒回答が約 90％、「学校行事はよく工夫されている」との保護者回答が約 90％で、概ね高評価を得ている。教職員も 80％以上が評価をしている。 ・「先生は話をよく聞いてくれる」との生徒回答が 80％を超えており、生徒が話しやすい環境が整っている。 ・「学校は必要な情報を知らせている」との保護者回答が 90％近くあり、進路に関する情報等が提供できている。 ・「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・評価についても保護者からは高評価を得ているが、約 15％の教職員が不十分さを感じており、更なる充実が課題である。 ・「支援教育に関する教員の専門性」については保護者から約 70～80％は評価を得ているが、約 10～20％は評価を得ていない。約 20％の教職員も不十分さを感じており、専門性の向上が大きな課題である。 ・「効果的な職員研修の実施」については、約 40％の教職員があまりあてはまらないと回答しており、研修内容等の検討が必要だと思われる。 【学校運営・経営に関するもの】 ・「特色ある教育活動」への保護者からの評価は約 50％であった。 ・「保護者に対する学校の相談体制、災害時・緊急時の対応」については、約 80％の保護者が高評価をしている。 ・「学習環境面としての学校の施設・設備」については、50％以上が低評価をしており、教職員からも課題が多く出されているので、改善が必要である。 ・「校内での業務等」について、30％程度の教職員が課題があると考えているが、約 80～90％の教員がやりがいを感じながら、仕事全般に取り組んでいる。 【課題】 ・教職員の支援教育における専門性の向上 ・中学部高等部での 6 年間の系統的な教育の実践 ・学習環境（施設設備面）の改善 ・早期（中学部）からのキャリア教育の実践 ・ホームページの充実を含め、学校から家庭への積極的な情報提供の実施	第 1 回（6／18） ○学校経営計画について ・保護者間で話している内容なども含まれており、素晴らしいと思う。一つ一つ実現できるよう、取り組んでほしい。 ○夏期休業中の登校日について ・7 月よりは 8 月に設定したほうがよいのではないか。 ○災害時等について ・要援護者モデル事業等で、情報の共有が不可欠だと考える。日常的には、学校も含めて要望やニーズを地域にあげて頂きたい。 第 2 回（11／22） ○教員の研修について ・生徒の障がいの特性等にかかわる研修をしてほしい。また、申し送りやアセスメントの面で、校内での引継ぎが大切である。 ○地域との連携等について ・学校行事及び地域での行事に双方向で参加する等、より一層、地域とのつながりを大切にしていきたい。 ○防災について ・学校と地域との連携が大切であり、学校はしっかりした建物だし、地域への貢献を考えると、あって良かったなと思える。 ○教科書について ・ロッカー等に眠ることのないよう、教員がうまく参考にして、大いに活用してもらえればと思う。 ○授業アンケートについて ・アンケートへの回答が 3 段階で少し書きにくかった。5 段階の評価でもいいと感じた。 第 3 回（2／24） ○教員の研修について ・支援教育に関する専門的な研修も大切だが、より子どもを理解するために、支援教育のベースとなる基礎的な研修にも力を入れてほしい。 ○生徒のアセスメント等について ・外部でも内部でもいいので、アセスメントについての専門家からアドバイスがもらえるように、また、発達検査を効果的に活用してほしい。 ○防災について ・災害時の対応マニュアルを作成する時には、保護者も巻き込んで、例えば保護者の迎えるマニュアル等も考えてはどうか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1安全安心な学校づくり	（1）大災害時をシミュレーションし、学校内外での対応を検討 ア・備蓄品の検討 イ・「災害時用個人カード（仮称）」の作成	ア・PTA と連携し、現在備蓄しているもの以外の必要なものの検討を行う。 ・必要な消耗品等の点検を行い、一覧表を作成し不足分を補充する。 イ・大災害時の安否確認方法として、「災害時用個人カード（仮称）」の記載内容及び保管方法について保護者と調整し、検討する。	ア・備蓄として必要なものの検討が進んだか。 ・全生徒、教職員が校内に宿泊する場合の消耗品等の一覧表作成と補充ができたか イ・「災害時用個人カード（仮称）」の記載内容を確定し、保管方法について保護者と意思統一できたか。	ア・現在の備蓄品を整理した。（○） ・校内宿泊時の必要消耗品等については検討中。（△） ・H27 通学区域変更に伴い、他支援学校との備蓄品等の調整が課題となる。 イ・「災害時用情報調査票」は作成終了。（○） 保管方法は検討中。（△） ・保管方法は個人情報の取扱いを含めて整理する必要がある。

府立交野支援学校四條畷校

2 授業力及び専門性の向上	（１）教員の授業力の向上及び知的障がい教育における専門性の向上 ア・研究授業の充実 イ・ＯＪＴの実施 ウ・研修参加	経験の少ない教諭の育成 ア・初任者・２年目・３年目の教諭全員が研究授業を実施する。 ・指導教員・教科指導員に加えて、首席・コーディネーター・研究部が主に指導案等へのサポートを行う。 ・研究授業後、授業者のニーズに合わせた研究協議を実施する。 イ・４年目の教諭を中心に教育実習生を担当し、指導する立場を経験する。 ウ・専門性の向上に直結する内容の研修を管外出張（校長裁量予算の活用）も含めて受講する。	ア・初任者・２、３年目の教諭全員が研究授業を実施できたか（30人） ・首席等が研究授業者を十分に指導できたか。 ・授業者のニーズが満たされたか（授業者が明確なねらいを持っていたか）。 イ・４年目の教諭が逆の立場から新たな課題意識を持つことができたか（５名）。 ウ・専門性の高い研修への教諭の派遣及び受講した内容を校内（校外も含め）フィードバックできたか（４名以上）。	ア・ほぼ全員が研究授業を実施。（22人が実施）（○） ・生徒個々への課題設定や授業立案の段階から教科指導員、指導教員、首席が授業者の相談に乗り、適宜アドバイスを与えながら、指導案作成時にも詳細に至るまで指導した。（◎） ・教員の力量アップに研究授業は非常に有効である。 ・概ね満たされたと評価している。（○） ・次年度からはテーマを絞り込んで、研究授業及び研究協議を充実させたい。 イ・４年目の教諭２名が指導を担当した。（△）新たな視点から生徒への指導方法等を学ぶことができた。（○） ・教育実習生の教科の関係で、４年目の教諭全員が指導を担当できなかった。 ウ・３名を派遣済みで、伝達講習の日程を調整中。他の研修受講も計画中。（△）
3 社会的自立への支援の充実	（１）生徒の卒業後の自立を見据え、生徒の持つ可能性を最大限に伸ばす。 ア・実習の充実 イ・クリーンコースの充実 ウ・キャリア教育の充実	経験の少ない教諭の育成 ア・進路部を中心としながら、経験の少ない教諭が生徒が実習に至るまでの様々な手続きや、実際に実習先に出向き、様々なノウハウを学ぶことで実習を充実させる。また、実習先の開拓を行う。 イ・クリーンコースを本格実施し、高等部各学年にクリーンコース担当者（経験の少ない教諭を含む）を配置する。学年間の指導者の意思疎通を図り、授業内容を充実させ、系統性を持たせる。 ・就職を希望する高等部３年生の生徒への指導をより充実させ、就職させる。 ウ・中学部生徒がクリーンコースや高等部の職業教育を見学・体験するなど、中学部でのキャリア教育を充実させる。また、保護者への見学会等も計画し、情報提供にも努める。	ア・経験の少ない教諭が積極的に実習先に出向くことができたか。（巡回指導 250回以上）また、実習先の開拓を行えたか。（開拓訪問 100ヶ所以上） イ・クリーンコースの指導方法等を明確にし、指導内容を系統的に整理できたか。 ・高等部３年生就職希望者全員が就職できたか（100%）。 ウ・中学部生徒の高等部見学の機会を複数回設定できたか。保護者への情報提供を効果的に行えたか。	ア・経験の少ない教諭も積極的に実習先に出向いた。（巡回指導 約140回）（開拓訪問 約90ヶ所）（△） ・高等部全体として、生徒の実習指導に取り組む事ができた。 イ・高等部各学年に担当者を新たに２名ずつ配置し、指導内容・方法を整理した。（○） ・次年度以降、新校開校に伴う通学区域変更に対応したクリーンコースの在り方が検討課題。 ・高等部３年生就職希望者の内75%の生徒が就職の予定。（△） ウ・6／14、21に保護者・生徒の見学会を実施した。11／12には高等部選択授業等の説明会を実施した。（○） ・次年度、中学部生徒のクリーンコース体験実習を検討

府立交野支援学校四條畷校

4 校内支援・校外支援の充実	（１）校内では家庭及び学校での生徒の安定した生活の確立、校外では地域支援の充実 ア・校内支援の充実 イ・校外支援の充実	経験の少ない教諭の育成 ア・家庭への支援や生活指導的な支援等の必要な生徒に対して、経験の少ない教諭から関係教員へ問題提起が行えるよう、支援部を中心とした事例検討会（10 ケース程度）を実施し、成功例、失敗例を具体的に検討する。	ア・経験の少ない教諭が、家庭への支援や生活指導的な支援等の必要な生徒に対するチームとしてのアプローチ方法を学べたか。 ・「個別の教育支援計画」を有効に活用できたか。	ア・事例検討会を 9 ケース実施した。チームとしてのアプローチ方法等を知ることはできた。
		イ・経験の少ない教諭をケース会議に出席させたり、コーディネーターの地域支援に同伴させたり、また、その準備を共に経験させたりしながら、専門性の向上を図り、支援を展開する。	イ・経験の少ない教諭が地域支援の実際を知り、そのために必要な事等を学べたか。また、自分に必要な専門性を明らかにできたか（のべ 20 回以上）。	・「個別の教育支援計画」も活用しながら協議できた。（○） ・経験の少ない教諭が、関係機関とも連携しながら、チームとして支援することができるよう、事例検討会は次年度以降も継続。 イ・可能な限り、コーディネーターの地域支援や会議等に同伴させ、必要な専門性を認識できた。（のべ 15 回）（△） ・今後は実際に支援するための専門性の向上が課題。 ・次のコーディネータの育成も大きな課題。